

きちょうな

矢部川の生きものの図鑑



はじめに

わたしたちの身近に流れる矢部川。

矢部川の水は、わたしたちの暮らしを支えてくれるだけでなく、たくさんの生きもののいのちを育てているんだ。

矢部川にはユニークな生活をする生きもの、世界でもめったにみられないめずらしい生きものなど、ふしぎがいっぱいなんだ。

さあ、いっしょに矢部川の生きものを調べてみよう！

もくじ

はじめに	1
生きものの体	2
矢部川ってどんな川？	3
この図鑑で紹介している生きものたち	5
きょうな生きものって何？	7
矢部川の生きもの	9
魚のなかま	9
貝・カニのなかま	12
植物のなかま	16
鳥のなかま	19
両生類・は虫類・ほ乳類のなかま	22
クモ・昆虫のなかま	24
さくいん	27

矢部川にはどんな生きものがいるかしら？

ぼくらと一緒に調べてみよう！



ふなごや ほたる



やべがわ もちのすけ

この図鑑の使い方

矢部川にどんな生きものがいるかは、国が「河川水辺の国勢調査」という調査で調べているんだ。

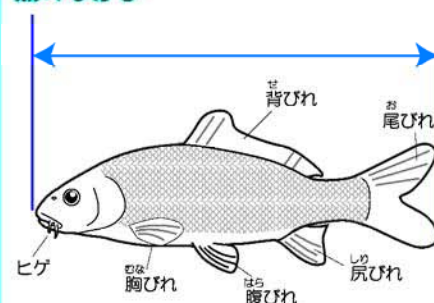
この図鑑では調べた生きもののうち、きょうな（めずらしい）種類や、川の環境や、他の生きものとのかわりが深い種類を紹介しているよ。矢部川の生きものを6つのグループに分けて見ていこう。



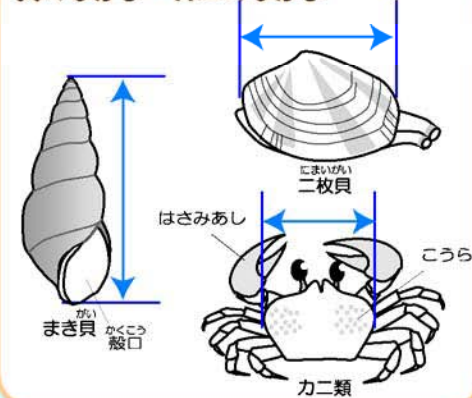
生きものの体

※この図鑑で示している体の大きさは、←→で示す部分の最大の大きさをはかったものです。

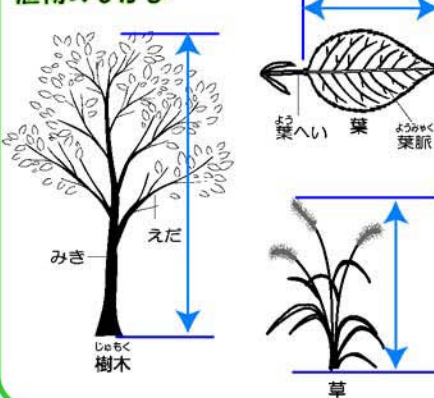
魚のなかま



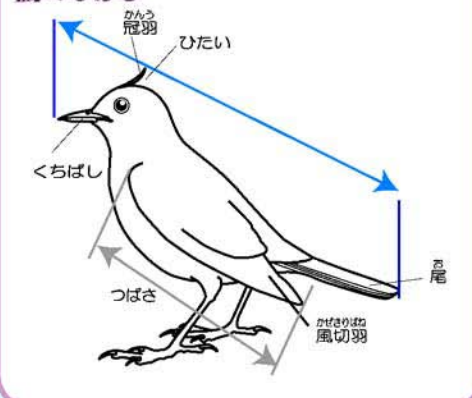
貝のなかま・カニのなかま



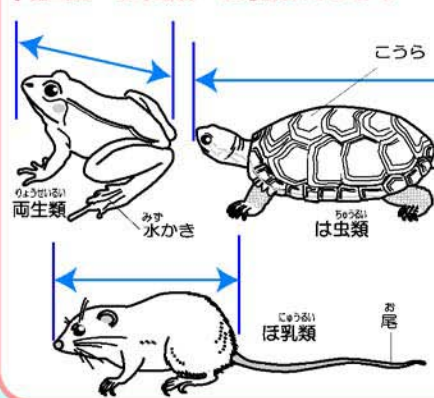
植物のなかま



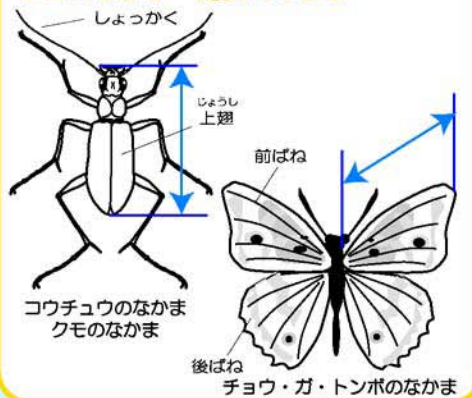
鳥のなかま



両生類・は虫類・ほ乳類のなかま



クモのなかま・昆虫のなかま



矢部川ってどんな川？

矢部川は、福岡県を流れる一級河川なんだ。
川のはじまりは八女郡矢部村の三国山。途中で星野川など、いろんな川と合流し大きくなって有明海に注いでいるんだよ。
矢部川の長さは61kmで、九州に21個ある一級河川の11番目なんだ。また、流域（降った雨が矢部川に集まるはんい）の広さは620 km²あるんだよ。
じゃあ、矢部川の中でも特にオススメの場所を紹介しよう。



干潟 河口には、川や海から運ばれてきた土や砂がたまって、「干潟」という地形ができるんだよ。潮が干いたときにだけ現れる場所なんだ。干潟にはたくさんの魚やエビ・貝などがすんでいて、それを食べる渡り鳥や海の魚たちにとっても大切な場所なんだ。矢部川など有明海に注ぐ川の河口は、特にきょうな生きものが多いから、環境省「日本の重要湿地500」に選ばれているんだよ。



有明のりの養殖

のりは海藻のなかまの植物。
のりが育つには、川が運んでくる栄養分と、海と川の水がまざったうすい塩水が必要なんだ。
矢部川などの有明海に注ぐ川の河口は、のりの産地として有名だよ。



河口：川が海や湖に流れ込むところ
堰：川の水をせきとめるために人が作った構造物

クスノキ林

中でも緑ゆたかな場所は、船小屋の「クスノキ林」。国の天然記念物にも指定されていて、いろいろな生きもののすみかになっているよ。
今から300年も昔の江戸時代、川の洪水から農地や家を守るため、田尻惣助・惣馬父子というお役人さんが、クスノキを植えたんだ。



八女茶の栽培

矢部川のまわりの地域で作られるお茶は、「八女茶」とよばれ、とても品質がよいといわれているよ。
矢部川のきれいな水に育まれているんだね。



ヨシ原

干潟と陸地の間は、潮の満ちひきによって海水につかったり干上がったたりするんだ。このようなきびしい環境では、塩分に強いヨシや塩生植物が草原を作ってがんばっているんだよ。
ヨシ原（ヨシが生える草原）には、カニや貝、鳥やネズミなどいろいろな生きものたちがすんでいるよ。

およそ20kmを国が管理しているんだけど、どんなようすかしら？



★船小屋のゲンジボタル群生地★

クスノキ林とならんで、国の天然記念物に指定されているのが、「船小屋のゲンジボタル群生地」だよ。船小屋のように水がきれい緑ゆたかな場所は、ホタルがすむためには最高なんだ。ゲンジボタルの幼虫は川の中でカワニナというまき貝を食べて大きくなり、桜が咲く春になると陸に上がって、さなぎから成虫になるんだよ。そしてオスとメスが光の信号を使って出会うんだ。



この図鑑で紹介している生きものたち

矢部川にはたくさんの種類の生きものがすんでいるんだ。

この図鑑では、きょうな生きものや、矢部川の環境とのかかわりが深い生きものをピックアップして、全部で107種類を紹介しているよ。

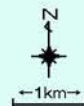
矢部川では、どこでも同じ生きものたちが見られるのかな？

そうじゃないんだ。実際にはね、生きものたちは川の環境のちがいに合わせて、それぞれの種類が生活しやすい場所を選んでるんだ。

表の色でぬったところが矢部川で見られる場所だよ。

グループ	No.	名前(種名)	矢部川で見られる場所	ページ
魚のなま			河口～下流 中流～上流	
1	ウナギ			9
2	エツ			9
3	ヤリタナゴ			9
4	ニッポンバラタナゴ			9
5	カセトゲタナゴ			9
6	アリアケギハチ			9
7	アユ			10
8	アリアケシラウオ			10
9	メダカ			10
10	クルマサヨリ			10
11	ヤマノカミ			10
12	オヤコラミ			10
13	ウラスボ			11
14	カワアナゴ			11
15	タビラクチ			11
16	ムツゴロウ			11
17	トビハセ			11
18	ハゼクチ			11
貝のなま			河口～下流 中流～上流	
19	イシマキガイ			12
20	ヒロクチカノコガイ			12
21	クロヘナタリガイ			12
22	オオクワリカワザンショウ			12
23	ムシヤドリカワザンショウ			12
24	カワザンショウガイ			12
25	アズキカワザンショウガイ			12
26	ヤベガワモチ			12
27	ナラビオカミミガイ			13
28	オカミミガイ			13
29	キヌカツギハマシイノミガイ			13
30	ウミマイマイ			13
31	モノアラガイ			13
32	クルマヒラマキガイ			13
33	イシガイ			13
カニのなま			河口～下流 中流～上流	
34	ヘイケガニ			14
35	ハマガニ			14
36	ウモレベンケイガニ			14
37	モクスガニ			14
38	クシチガニ			14
39	ベンケイガニ			14
40	ムツハアリアケガニ			15
41	アリアケガニ			15
42	アリアケモドキ			15
43	ハラクグレチゴガニ			15
44	シオマネキ			15

グループ	No.	名前(種名)	矢部川で見られる場所	ページ
植物のなま			河口～下流 中流～上流	
45	コキシギシ			16
46	ウシオツメクサ			16
47	ヒロハマツナ			16
48	コイヌガラシ			16
49	ミスマツバ			16
50	ハマサシ			16
51	ロクオンソウ			17
52	ミソコウシュ			17
53	カワチシャ			17
54	フクト			17
55	ウラギク			17
56	オグルマ			17
57	アズマガヤ			18
58	ヤガミスグ			18
59	イソヤマデンツキ			18
60	ツキヌキオトギリ			18
61	クスノキ			18
62	ヤナギ			18
鳥のなま			河口～下流 中流～上流	
63	カイツブリ			19
64	カワウ			19
65	ダイサギ			19
66	チュウサギ			19
67	コサギ			19
68	ミサゴ			19
69	ヒクイナ			19
70	イカルチドリ			20
71	セイタカシギ			20
72	ツバメチドリ			20
73	コリカモメ			20
74	スズロカモメ			20
75	コアシサシ			20
76	ヤマセミ			21
77	カワセミ			21
78	オオヨシキリ			21
79	カササギ			21
両生類・爬虫類のなま			河口～下流 中流～上流	
80	アマガエル			22
81	トノサマガエル			22
82	ヌマガエル			22
83	ツチガエル			22
84	クサガメ			22
85	スッポン			22
86	シマヘビ			23
87	アオダイショウ			23
88	ヤマカガシ			23
89	カヤネズミ			23
90	タヌキ			23
91	イタチ			23
クモ・昆虫のなま			河口～下流 中流～上流	
92	キシノウエトタテグモ			24
93	ハグロトンボ			24
94	フクロクヨコバイ			24
95	ベニツチカメムシ			24
96	オオアメンボ			24
97	ハイイロボクトウ			24
98	ヒメキマダラセセリ			25
99	コムラサキ			25
100	コマダラチョウ			25
101	ツマグロキチョウ			25
102	ヒカゲチョウ			25
103	アオヘリボソゴミムシ			25
104	ゲンシボタル			26
105	ヤマトヒメメダカカッポウムシ			26
106	ジュウリンホシデントウ			26
107	ヤナキハムシ			26



中流～上流

川はばがせまく、流れがはやくなる。下流より水質が良い。



下流～中流

堰がたくさんあり、流れがゆるやか。川岸は草が多い。



河口～下流



河口～下流

一番下流にある瀬高堰で海からの塩水はせき止められる。



河口

河口は川はばが広く、干潟やヨシ原がある。



国土交通省が管理している区間

きちょうな生きものって何？

～絶めつが心配されている生きものたち～

この図鑑で紹介している“きちょうな生きもの”ってどんな生きものなんだろう。それは、だんだん数がへってきて、地球上からいなくなってしまうこと（絶めつ）が心配されている大切な生きものことなんだ。そこで、国（環境省）や都道府県では、この“きちょうな生きもの”の数や、生きていくために必要な環境などを調べて、より多くの人々に知ってもらうために「レッドデータブック」という本にまとめて、保護を呼びかけているんだ。

今、日本だけでなく世界中のたくさんの生きものの絶めつが心配されているんだ。人がむやみにつかまえたり、生きものたちのすみかをこわしたり、さらに別の場所からつれて来た強い生きもの（「外来種」というよ。）が弱い生きものを食べたりして、多くの生きものに危険が迫っているんだ。生きものたちは自然の中で、お互いにかかわりあって生きているから、そのバランスがくずれたら、次々と絶めつしてしまうかも知れないんだ。どんな生きものたちも、もし絶めつしてしまったら、人の力では二度とよみがえらせることはできないんだよ。そうなるみんなの暮らしもさびしいものになってしまうよね。だから私たちは、自然を大切に未来へ残していかななくてはならないんだ。

きちょうな生きものを見つけたらそっとしておいてね。

環境省・福岡県のレッドデータブックカテゴリー

※絶めつ危機：絶めつが心配されているという意味

カテゴリー（なかつた）	定 義（詳しい説明）
1 絶滅（EX）	すでに絶滅したと考えられる種
2 野生絶滅（EW）	飼育・栽培下でのみ存続している種
3 絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）	絶滅の危機に瀕している種
4 絶滅危惧ⅠA類（CR）	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種
5 絶滅危惧ⅠB類（EN）	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種
6 絶滅危惧Ⅱ類（VU）	絶滅の危険が増大している種
7 準絶滅危惧（NT）	現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種
8 保全依存種（CD）	現在保全策が継続実施されているが、その保全が中止された場合に、絶滅のおそれのある状態に移行する可能性のある種
9 天然不明（UK） ※福岡県のみ	本来天然分布が認められた水域でさらに放流や移植が行われ、遺伝子の攪乱が予測される種
10 情報不足（DD）	評価するだけの情報が不足している種
11 地域個体群（LP）	次のいずれかに該当する地域個体群 ・生息域が孤立しており、地域レベルで見た場合絶滅の危険性が高い種 ・地方型としての特徴を有し、生物地理学的観点から見て重要と判断される地域個体群で、絶滅の危険性が高い種

ちょっとむずかしいけど絶めつの心配の度合いに合わせてランクつけされているわ。9ページからの図鑑では、生きもの名前の横に生活のしかたを表すマークと（環）環境省の選んだ絶めつ危機種、（福）福岡県の選んだ絶めつ危機種の印をつけているから気をつけてみてね。

上のほうにあるものは絶めつの危険がある

矢部川で見つかった生きものうち絶めつが心配されているもの

○は、この図鑑にのっている種。

種名	環境省	福岡県	図鑑
ウナギ	VU	NT	○
エツ	VU	VU	○
ヤリタナゴ		NT	○
カネヒラ		NT	○
ニッポンバラタナゴ	CR	VU	○
カゼトゲタナゴ	VU	VU	○
アリアケギバチ	NT	NT	○
アユ		UK	○
アリアケシラウオ	CR	CR	○
メダカ	VU	NT	○
クルマサヨリ		CR	○
ヤマノカミ	VU	NT	○
オヤニラミ	NT	NT	○
カワアナゴ		NT	○
タビラクチ	EN	VU	○
ムツゴロウ	VU	VU	○
トビハゼ		EN	○
ハゼクチ		NT	○

種名	環境省	福岡県	図鑑
イシマキガイ		VU	○
ヒロクチカノコガイ		VU	○
オオタニシ		VU	○
クロヘナタリガイ	CR+EN	○	
オオクワリロウザンショウ	CR+EN	○	
ムシヤドリカワザンショウ	CR+EN	○	
カワザンショウガイ	NT	○	
アズキカワザンショウガイ	VU	○	
ナラビオカミミガイ	CR+EN	○	
オカミミガイ	VU	○	
キヌカツギハマシノミガイ	CR+EN	○	
ウミマイマイ	CR+EN	○	
モノアラガイ	NT	○	
ヒラマキミズマイマイ	CR+EN	○	
クルマヒラマキガイ	VU	CR+EN	○
ハマガニ		NT	○
ウモレベンケイガニ		NT	○
ヒメアシハラガニ		NT	○
クシテガニ		NT	○
ベンケイガニ	CR+EN+VU	○	
ムツバアリアケガニ		NT	○
アリアケガニ	CR+EN+VU	○	
アリアケモドキ	CR+EN+VU	○	
ハラダクレチゴガニ	DD	LP	○
シオマネキ	NT	CR+EN+VU	○

種名	環境省	福岡県	図鑑
ヒノキ		DD	
コギシギシ	VU	VU	○
ウシオツメクサ		DD	○
ヒロハマツナ	VU	CR	○
ニッケイ	NT		○
コイヌガラシ	NT	VU	○
ハマボウ		VU	○
ミズマツバ	VU		○
ハマサジ	VU	VU	○
ロクオンソウ	EN	CR	○
ミソコウシュ	NT		○
シソクサ		EN	○
カワヂシャ	NT	NT	○
トウオオバコ		VU	○
クソニンジン		DD	○
フクド		VU	○
ウラギク	VU	VU	○
オグルマ		DD	○
アズマギヤ		DD	○
アワガエリ		DD	○
ヤガミスゲ		EN	○
ツキヌキオトギリ	CR	EN	○

種名	環境省	福岡県	図鑑
チュウサギ	NT	NT	○
オシドリ		NT	○
アカハジロ	DD	NT	
ミサゴ	NT	NT	○
ハイタカ	NT	NT	
チュウビ	VU	EN	
ハヤブサ	VU	VU	
ヒクイナ		NT	○
イカルチドリ		VU	○
ダイシャクシギ		VU	
セイタカシギ	EN		○
ツバメチドリ	VU	VU	○
ズクカモメ	VU	EN	○
コアサシ	VU	VU	○
アオバズク		VU	
オオヨシキリ		NT	○
キビタキ		NT	
オオルリ		NT	
サンコウチョウ		VU	
カリリキ		CD	○

種名	環境省	福岡県	図鑑
トノサマガエル		EN	○
スッポン	DD	NT	○
カヤネズミ		CR+VU	○

種名	環境省	福岡県	図鑑
キシノウエタデゲモ	NT		○
オオオカメコオロギ	DD		
フクロゴキバイ	NT		○
ベニツチカメムシ		NT	○
オオアメンボ		VU	○
イトアメンボ		VU	
ハイロボクトウ		VU	○
ヒメキマダラセリ		VU	○
コムラサキ		VU	○
ツマグロキチョウ	VU	VU	○
ヒカゲチョウ		CR+EN	○
アオヘリホリゴミムシ		NT	○
セマルシメジ		VU	
ヨコミソドロムシ	CR+EN		
ジウサンホシデントウ		VU	○



※河川水辺の国勢調査で今までに確認された種をあげています。その他の文献情報は含んでいません。

矢部川の魚の生活のしかた→

：一生を川の真水の中で生活するもの

：川と海を行き来する（回遊する）もの

：川の下流と海の塩水が混ざるところで生活するもの

ウナギ 福

ウナギ目 ウナギ科

(大きさ100cm)



体は細長く、表面がぬめぬめしている。日本から遠く離れた太平洋の沖で卵を産み、子供は黒潮に乗って日本の川に帰ってくる。昔からかば焼などで食用にされ、柳川ではウナギのセイロ煮しがある。

エツ 環 福

ニシン目 カタクチイワシ科

(大きさ40cm)



体はうすく長く、大きなうろこにおおわれてきらきらしている。筑後川のごく限られた場所で卵を産むらしい。日本では有明海の奥部とそこに注ぐ河川の感潮域にしかない。とても数がへっている。

アユ 福

サケ目 アユ科 地方名：あい

(大きさ30cm)



背ビレの後ろに小さなヒレ(アブラビレ)がある。体はスマートでキュウリのようなにおいがする。川で産まれた子供は海に下り、少し成長して川をさかのぼり、川底の石についたコケを食べて大きくなる。

アリアケシラウオ 環 福

サケ目 シラウオ科 地方名：とんさいお、しらいお、しらうお

(大きさ15cm)



体は無色とうめい、顔が平らなふしぎな姿の日本最大のシラウオ。日本では有明海とそこに注ぐ川の河口にしかない。昔は「殿様が食べる魚」という意味でトンサイオと呼ばれ、食用にしていた。

えんりん
塩分のうすい所
まで川をさかのぼり、
砂地に卵を産むのよ。
筑後川と修川でだけ
見つかったというわ。

ヤリタナゴ 福

コイ目 コイ科 地方名：ぼて、べんちよこ、しゅぶた、にがふな

(大きさ10cm)



15ページも見てね

川や水路、池などすみ場所はさまざま。タナゴのなかまの中では体がスマート。卵を産む時期にオスの体は赤くなり、口の上に追星(おいぼし)というブツブツができる。二枚貝の中に卵を産む。

ニッポンバラタナゴ 環 福

コイ目 コイ科 地方名：べんちよこ、しゅぶた、びんた、しびんた にがふな

(大きさ5cm)



15ページも見てね

卵を産む時期のオスの体はバラの花のように赤くなり、とてもきれいだ。外国産のタイリクバラタナゴとの雑種ができてしまい、純粋なニッポンバラタナゴの絶滅が心配されている。二枚貝の中に卵を産む。

メダカ 環 福

ダツ目 メダカ科 地方名：ざこ・めざこ

(大きさ4cm)



水田や水路、河川の流れのゆるやかな場所にすみ、水草などに卵を産む。身近な魚だけれど、最近数が少なくなっている。外国産の觀賞魚のグッピーやカダヤシに形が似ている。

クルマサヨリ 福

ダツ目 サヨリ科 地方名：よど

(大きさ20cm)



湖や大きな河川の下流にすみ、水草などに卵を産む。海にすむサヨリに似て口が針のようにとがっていて、口の先が黒い。九州では有明海に注ぐ川以外ではほとんど見られなくなってしまった。

カゼトゲタナゴ 環 福

コイ目 コイ科 地方名：べんちよこ、しゅぶた、しびんた

(大きさ5cm)



15ページも見てね

流れのゆるやかな水路などにすみ、小さなタナゴのなかま。体に鮮やかな青い線があり、卵を産む時期のオスは虹色になる。水草の生えるような川の流れのゆるやかなところにすみ、二枚貝の中に卵を産む。九州北部にしかない魚。

アリアケギバチ 環 福

ナマズ目 ギギ科 地方名：ぎゅうぎゅう・ぎゅうぎゅう・げんぎゅう・とらぎゅう

(大きさ25cm)



ナマズより体が小さく8本のひげがあり、黄色のしま模様がある。胸びれの骨のギザギザを使ってギューギューと音を出す。背びれと胸びれのトゲには毒があり、刺されると痛い。九州西部と宮崎県だけにしかない。

ヤマノカミ 環 福

カサゴ目 カシカ科 地方名：やまなかみ

(大きさ16cm)



顔が平たく、えらにトゲがあり、刺されると痛い。卵を産む時期になると川を下り、河口のカキ殻などにうみ、オスが守る。日本では有明海とそこに注ぐ河川の感潮域にしかない。

オヤニラミ 環 福

スズキ目 ケツギョ科 地方名：みずくりせべえ・よつめ・せせべい・やりめばる

(大きさ13cm)



流れがゆるやかでヨシなどの植物が生える水ざわにかくれていて、水生昆虫や小魚を食べる。オスが卵や子供を守り敵をにらみ追い返すことから「親にらみ」の名前がついた。九州では北部にしかない。

矢部川の魚の生活のしかた⇒

一生を川の真水の中で生活するもの

川と海を行き来する(回遊する)もの

ワラスボ

川魚・海

スズキ目 ハゼ科 地方名:すぼ

(大きさ35cm)



体はウナギやミズにて、ぬるぬる。するといぬがある。泥の干潟に巣穴を作り、潮が満ちると泳ぎ出して貝やエビなどを食べる。日本では有明海にしかない。有明海には「すぼかき魚」という伝統漁法がある。

カワアナゴ

海・川

スズキ目 カワアナゴ科 地方名:とんぼ

(大きさ25cm)



体の色は主にこげ茶色で、さまざまに変化する。河川の下流に近いところの石の下などにじっとひそみ、小魚やエビなどを食べる。卵を産む場所など生活のくわしいことはなぞが多いらしい。

タビラクチ

川魚・海

スズキ目 ハゼ科

(大きさ60cm)



テッポウエビ→

河川の河口などのやわらかい泥の干潟をすみかとし、干潟の表面のソウ類などを食べる。九州では瀬戸内海や有明海に面する場所にしかない。テッポウエビの巣穴によくいるので、いっしょに生活しているかもしれない。

ムツゴロウ

川魚・海

スズキ目 ハゼ科 地方名:むつ

(大きさ18cm)



目が飛び出てユニークな顔。背びれは帆のように大きく、りり色の光る玉もようがきれい。泥干潟に巣穴を作り、潮が干くと干潟の表面のソウ類を食べ、なわばりを持つ。日本では有明海沿岸にしかない。

トビハゼ

川魚・海

スズキ目 ハゼ科 地方名:かなむつ・かつむつ・かつん・がたはせ

(大きさ10cm)



ムツゴロウに似ているが、体が小さく、体になり色のようがない。魚なのにひふで呼吸もできるので、潮が満ちると水から逃げて岸辺にいる。日本各地の泥の干潟にすむ。

ハゼクチ

川魚・海

スズキ目 ハゼ科 地方名:はしくい

(大きさ40cm)



マハゼの尾びれ

マハゼにそっくりだけど体が大きくなり、尾びれにもようがないので見分けられる。日本最大のハゼで60cm以上になるものもあるが、寿命は1年。日本では有明海と八代海にしかない。食べるとおいしい。

川の下流と海の塩水が混ざるところで生活するもの

イシマキガイ

海・川

オキナエビスガイ目 アマオブネガイ科

(大きさ3cm)



丸い貝がらをもつまき貝のなかま。河川の中〜下流にすみ、石の表面にくっついてコケなどを食べる。貝のなかまではめずらしく川と海を行き来するといわれていて、生まれたばかりの幼生は海、親は川の上流で見つかる。

ヒロクチカノコガイ

川魚・海

オキナエビスガイ目 アマオブネガイ科

(大きさ2cm)



イシマキガイに似ているけれど貝がらの口が広がっていることから「ヒロクチ」の名前がついた。泥の干潟やヨシ原の中でも水たまりや石の下などの限られた場所にいることが多い。

クロヘナタリガイ

川魚・海

二ナ目 ウミナナ科

(大きさ3cm)



全体が黒っぽい色をして、先がとがった形のまき貝。干潟やヨシ原の中にすんでいる。有明海や瀬戸内海など以外ではほとんど見られないほど数が減っているらしい。

ヤベガワモチ

川魚・海

イソアワモチ目 イソアワモチ科

(大きさ6cm)



よく、矢部川で初めて見つかったんだ。だから「やべがわもち」って名前なのさ。

泥のついたおもち、貝がらのないアワビのような、ふしぎな形のまき貝のなかま。日本では矢部川と他の一部の川でしか発見されていない、めずらしい貝。空気を呼吸ができ、泥干潟の上をスイスイはい回る。

カワザンショウガイのなかま

二ナ目 カワザンショウガイ科

川魚・海

川の河口近くにすんでいるザンショウの実に似るの小さなまき貝。色んな種類があって形がとても似ているよ。

オケリイロカワザンショウガイ

ムシヤトリカワザンショウガイ

カワザンショウガイ

アズキカワザンショウガイ



(大きさ0.8cm)

名前のとおり大きく、からは栗のような色。九州北部と有明海の奥の方にしかない。



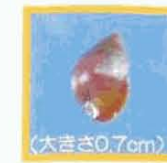
(大きさ0.4cm)

からに黄色いラインがある。体の中に寄生虫がいるので「虫宿り」の名がついた。実際にはそんなに虫はいないらしい。



(大きさ0.9cm)

ヨシ原や干潟にすむ。他の種類よりもふつうに見られる。多い所では地表やヨシの茎など一面にいる。



(大きさ0.7cm)

まるであずきの様に赤くて小さい。陸地に近い場所にいる。有明海沿岸とそこに注ぐ河川にしかない。

矢部川の貝やカニの生活のしかた⇒

一生を川の真水の中で生活するもの

川と海を行き来する(回遊する)もの

川の下流と海の塩水が混ざるところで生活するもの

オカミミガイのなかま

オカミミガイ目 オカミミガイ科 福

川(淡水・海)

ナラビオカミミガイ

(大きさ1cm)



オカミミガイより小さく、貝がらの表面がつるんとしている。ヨシ原の石の下などにすむ。

オカミミガイ

(大きさ3.5cm)



オカミミガイのなかまでは最大の種。貝がらの口が「耳」の形に似ている。ヨシ原の陸地に近い場所にすむ。

キヌガサキハマシイミガイ

(大きさ1cm)



からに横しまちようがあり、どんぐりのような形をしている。

だから川岸の陸地に近いところでも生きていけるんだね。

オカミミガイやウミマイのなかまはカタツムリのように殻を持っているのよ。



ハイケガニ

川(淡水・海)

エビ目 ハイケガニ科

(大きさ2.5cm)



第3、4対の足がとても小さく、一見足が2対しかないように見える。小さい足は、貝がらなどをおんぶして身をかくすのに使う。甲らのでこぼこが平家のぼうしの顔に見えるというのが名前の由来。

ハマガニ 福

川(淡水・海)

エビ目 モクスガニ科

(大きさ4cm)



体が大きく、こうらの形は丸みがあり、眼と眼の間に深いみぞがある。ヨシ原や土手に大きく深い巣穴を作る。カニのなかまではめずらしく植物が好物で、夜に巣穴から出てきてヨシなどを食べる。

ウミマイマイ 福

川(淡水・海)

オカミミガイ目 ウミマイマイ科

(大きさ0.6cm)



からは、丸く、入り口が大きく開く。名前の由来は海にすむマイマイ(カタツムリのなかま)で、肺呼吸ができる。泥の中に潜っていて、潮が干くと干潟表面のソウ類を食べる。世界中で有明海にしかない。

モノアラガイ 環

川(淡水)

モノアラガイ目 モノアラガイ科

(大きさ2.5cm)



河川の流れのないところや池にすみ、水草などの表面にくっついていて、全国にいるけれど、サカマキガイなど外国産の貝にすみかをうばわれている所もある。ハイケボタルのえさになる。

ウモレベンケイガニ 福

川(淡水・海)

エビ目 イワガニ科

(大きさ1.8cm)



名前のとおり、干潟の石の下などにもれていることが多く、動きはにぶい。甲らの表面は灰色でごつごつして、まるで泥のかたまりのようなので、見つけるのはちょっとむずかしい。

モクスガニ 海・川

海・川

エビ目 モクスガニ科 地方名: やまたらうがに つかに

(大きさ8cm)



河川のカニの中では最大級の大きさになる。オスのハサミは藻のクスのようなふさふさした毛が生え、手袋をはめているようだ。生まれたばかりの子供は海でしか生きられないので、親は川を下って卵を産む。

クルマヒラマキガイ 環 福

川(淡水)

モノアラガイ目 ヒラマキガイ科 別名: レンズヒラマキガイ

(大きさ0.2cm)



カタツムリのような形の小さなまき貝。貝がらはガラスのレンズのように平たくつるんとしている。田んぼ、ため池、用水路などの泥や水草の上をはって、水草に卵を産む。

イシガイ

川(淡水)

イシガイ目 イシガイ科

(大きさ6cm)



15ページも見てね

二枚貝。からの外がわは黒く、内がわは真珠のような色。川や水路、湖沼にすむ。生まれたばかりの子供は魚のえらにくっついて育つ。魚(タナゴのなかま)はイシガイのなかまの生きた貝がらの中に卵を産む。

クシテガニ 福

川(淡水・海)

エビ目 イワガニ科

(大きさ2.2cm)



ハサミの先が赤く、ハサミに並んだてつぱりがクシのように見えるのが名前の由来。河口の川岸の中でも陸地に近いところのヨシ原やそのまわりの石の下などにすんでいる。

ベンケイガニ 福

川(淡水・海)

エビ目 イワガニ科

(大きさ2.5cm)



体が赤く、背中はでこぼこがある。ヨシ原や土手に巣穴を作っていて、川からはなれた所まで歩いていくこともある。昔はたくさんすんでいたけれど、近ごろ福岡県では数がへっているらしい。

矢部川のカニの生活のしかた⇒ 川の下流と海の塩水が混ざるところで生活するもの

アリアケガニのなかま

エビ目 ムツハアリアケガニ科

川・海

ムツハアリアケガニ

(大きさ0.7cm)



こちらのふちに6つの歯(ギザギザ)があるのが名前(ムツハ)の由来。アナジャコの多い砂泥の干潟に浅い巣穴を作る。

アリアケガニ

(大きさ2cm)



爪の先が赤く、足は毛でおおわれている。捕まえると死んだふりをする。有明海沿岸など限られた地域にしかない。

アリアケガニ

(大きさ1cm)



アリアケガニに似ているけれど、体は平たく、こちらには横一文字でっぱりがある。泥干潟の水たまりなどにすんでいる。

ハラグクレチゴガニ

エビ目 スナガニ科

(大きさ1cm)



河川の河口から少しさかのぼったところのコンシ原や泥干潟にすむ。体は泥と同じ灰色で、オスのお腹がくぐれ(くびれ)ているのが名前の由来。日本では有明海の奥の方に注ぐ河川にしかない。

シオマネキ

エビ目 スナガニ科 地方名: まがに がんつがに

(大きさ3.3cm)



オスは片方のハサミだけが巨大で、ハサミを振るしくさが潮を招いているように見える。これはメスの気をひいたり、他のオスをおどすためだ。赤と黒の色彩がきれいなカニで、泥干潟やヨシ原に巣穴を作っている。

矢部川のカニと貝のカンケイ

生きものたちのつながり

矢部川を代表する魚といえば、タナゴのなかま。彼らはどんな子育てをするか知ってる？ タナゴはイシガイのなかまの生きている二枚貝の中に卵をうんで、敵から子供を守る“ゆりかご”として使うんだよ。じゃあ貝は魚に利用されるだけなのかって？ 実は、貝の方も魚に育ててもらうんだ。イシガイ科の幼生は、体の組織ができあがるまでの間、ヨシノボリなどの魚のエラにくっついて、かくれて過ごすんだよ。

タナゴはイシガイの中に卵を産む



イシガイのなかま

イシガイの幼生はヨシノボリなどの魚のエラにくっついて成長する



ヨシノボリのなかまなど

タナゴだけでなくイシガイやヨシノボリなどの色々な生きものがいっしょにすめる川が必要なのね。



植物の花⇒花の色



花が見られる時期を●色でぬっています。塩生 塩生植物。塩分がある土地に生える特別な仕組みをもった植物。葉が厚いのがとくちょう。

コギシギシ

タデ科

(大きさ50cm)



葉はギシギシより小さく、長さ4~6cmでうらに毛がない。花は小さく目立たない。河川ぞいの砂地、田のあぜなどの日当たりのよい湿った草地に生える。

ウシオツメクサ

ナデシコ科

(大きさ35cm)



河口の湿地に群生する小さな一年草。名前の由来は鳥の爪のように葉が小さく、潮の満ち干きのある湿地に生えることから。うすピンク色の小さい花がさく。

ヒロハマツナ

アカザ科

(大きさ30cm)



葉は肉があつく平らで、秋には紅葉する。潮が満ちるとすっかり塩水につかるような低い所でも生きていける。花は1~5個が葉のつけ根にまとまってつく。河口や海岸の湿地の泥地に生える。

コイヌガラシ

アブラナ科

(大きさ40cm)



アブラナ(菜の花)のなかま。小さく茎が1本だけたちあがっていることが多い。花と実が葉のつけ根につくのがとくちょう。田のあぜや河原など、日当たりによく湿り気のある場所に生える。

ミズマツバ

ミソハギ科

(大きさ10cm)



葉は赤っぽい色で根元は地面をはう。マツのように細くて小さい葉が3~4枚輪のようにつき、ピンク色がよく持つ花が葉の根元につく。水田などの湿地に生える。

ハマサジ

イソマツ科

(大きさ50cm)



葉は「さじ(スプーン)」のような形で長さ6~17cmと大きく、厚くてなめらかな感じ。花は黄色~白色で秋に咲く。河口の潮が満ちてきたときに水につかるような場所で、砂や小石のある所に生える。

植物の花⇒花の色 花が見られる時期を●色でぬっています。

ロクオンソウ 環 福

ガガイモ科 (大きさ80cm)

春のようす

花の写真!



茎はまっすぐで、葉と茎は白っぽい。海ぞいの草原、草地に生える。岩手県、山口県、四国、九州で見られる。星形の黄色い花が咲いたあと、長さ5cmもある大きな実がつく。

ミゾコウジュ 環

シソ科 (大きさ70cm)

春のようす



冬のすかた

葉にはしわと毛がある。うす紫色の小さいくちびるのような形の花をたくさんつける。湿った草地や水田のあぜなど明るい場所に生える。

アスマガヤ 福

イネ科 (大きさ120cm)

春のようす



イネのなかまで見た目は地味。いなほのような花をつける。山地の林の中に生える。名前は原産地の福島県吾妻山に由来するといわれている。

ヤガミスゲ 福

カヤツリグサ科 (大きさ120cm)

春のようす



葉は細長く、さやの部分が空どう。小さい穂がこんべいとうのように集まってつく。川ぞいのヤナギ林の下などの湿気のある草地に生える。

カワギシャ 環 福

ゴマノハグサ科 (大きさ50cm)

春のようす



名前の由来は川に生えるチシャ(レタス)。花は白〜うすピンク色。葉にギザギザがある。日当たりのよい川岸や水田などの湿地に生える。

フクド 福

キク科 地方名: ハマヨモギ (大きさ90cm)

夏のようす



塩生

葉は厚く、生えはじめは白い毛がある。4mmほどの黄色の花をたくさんつける。潮が満ちると海水につかるような泥地に生える。ヨモギのなかまだが、メロンのような香りがする。

イソヤマデンツキ 福

カヤツリグサ科 (大きさ40cm)

秋のようす



塩生

茎の先からいくつもの枝を出し、その先に茶色の穂を1個つける。葉は細くてかたい。海岸や河口の岩場や砂地に生える。

ツキヌキオトギリ 環 福

オトギリソウ科 (大きさ50cm)

春のようす



向かい合う葉は1枚に合体し、その真ん中を茎がつかぬように見えるのが名前の由来。黄色の小花をつける。林のふち、川岸の草原などにまれに見られる。

ウラギク 環 福

キク科 (大きさ60cm)

秋のようす



塩生

葉はやや茎をまくように付き、細長く厚く、少し光沢がある。キクのなかまでうす紫の花がきれい。潮の満ち干きのある、河口近くの砂や小石の河原に生える。

オグルマ 福

キク科 (大きさ60cm)

秋のようす



地下に茎を出して群れて生え、茎には毛がある。丸く小さい花をつけるようすを車にたとえたのが名前の由来。水田のあぜや川岸などの湿地に生える。

クスノキ林 福

クスノキ科 (大きさ20cm)

春のようす



ダニ部屋

4ページも見てね

葉はうすくつるつるして、ふちは波うつ。葉脈には「ダニ部屋」という1mmのこぶが1対あり、中にダニがすんでいる。葉をちぎるとツンとする臭いがする。矢部川のクスノキ林は、たくさんの生きもののすみかになっている。

ヤナギ林 (オオタチヤナギ) 福

ヤナギ科 (大きさ15cm)

春のようす



日当たりのよい川岸に生え、洪水で水につかっても生きのびるほど丈夫。ヤナギはきょうな種類ではないけれど、ヤナギ林はコムラサキなどの昆虫や鳥などの生きものすみかになっている。

矢部川の鳥の生活のしかた ⇒ 夏鳥 南の方からやってきて子育てしながら夏を過ごす鳥 冬鳥 北の方からやって冬の間を過ごす鳥 旅鳥 春と秋の旅のとちゅうで立ち寄るだけの鳥

カイツブリ

留鳥

カイツブリ目 カイツブリ科 地方名：けいつぶり

(大きさ26cm)



小さなカモにている。夏は暗い茶色で首が赤茶色、冬は肌色。泳ぎが上手で潜って魚や水生昆虫などをとる。水草などを集めて浮巣をつくって子育てをする。「ケレレレ…」とよくなく。

カワウ

留鳥

ペリカン目 ウ科 地方名：う

(大きさ82cm)



一見すると真っ黒だが、瞳の色は鮮やかなみどり色で、くちばしが黄色い大きな鳥。河口や池など、水面が広い場所で見られる。水にもぐって魚をとる。たくさん集まって木の上で寝る。

イカルチドリ

留鳥

チドリ目 チドリ科 地方名：ちどり

(大きさ21cm)



背中が淡い茶色、おなかは白、目のまわりはうすい黄色。すばやく動いて河原の昆虫などを食べる。河原にすみ、子育ての時期に敵が近づくとき親が怪我をしたふりをしておとりになり、子供を守る。

セイタカシギ

旅鳥

チドリ目 シギ科

(大きさ32cm)



足が長くスマートな鳥。頭から背中が黒く、おなかから顔は白い。旅のとちゅうで干潟や川岸にやって来て、細長いくちばしを使って水生昆虫や魚などを食べる。

21ページも見てね

ミサゴ

留鳥

タカ目 タカ科 地方名：びしやこ

(大きさ64cm)



トビに比べて体が大きい、おなかの白いので見分けられる。川や池、海沿いなどのひろけた所に多い。空から急こう下して水中の魚をつかまえて食べる。人が近づかないような崖などで子育てをする。

ヒクイナ

夏鳥

ツル目 クイナ科

(大きさ23cm)



体が赤茶色、足が赤くて良く目立つ。水辺に植物がしげる川や池のまわり、水田などにすみ、子育てをする。けいけい音が強いので姿を見るのがなかなかむずかしい。昆虫や植物の実などを食べる。

ツバメチドリ

旅鳥

チドリ目 ツバメチドリ科

(大きさ24cm)



のどが黄色く、目とのかかむように黒い線があって、目つきがすどくみえる。名前のとおり、飛び姿はツバメにそっくり。小石のある河原などにすみ、空中で昆虫をとらえて食べる。

コアジサシ

夏鳥

チドリ目 カモメ科

(大きさ28cm)



一見、真っ白だが、頭が黒く、くちばしと足が黄色い。干潟や中州などにすみ、ダイビングして魚をとる。小石のたまった河原や中州が少なくなっているので埋立地などで子育てする姿も見られる。

サギのなかま

コウノトリ目 サギ科 地方名：しらさぎ

ダイサギ

留鳥

チュウサギ

留鳥

コサギ

留鳥



(大きさ90cm)
体が大きい

くちばしが細長い
首が長い
足は黒い

体の大きなサギのなかま。夏には目の先が青緑色になる。水田、干潟、河川、湿地などにすみ。1年中見られる。



(大きさ68cm)
ダイサギより体が小さい

くちばしが短い
足は黒い

夏には目の先が黄緑色、くちばしは黒くなる。水田、湿地などでカエルや魚を食べる。干潟にはほとんどいない。



(大きさ61cm)

くちばしは黒く長い
夏は頭に2本のかざり羽が出る
足は黒く先が黄色

体の小さなサギのなかま。夏には目の先がピンク色になるものもある。水田、干潟、河川、湿地などにすみ。1年中見られる。

カモメのなかま

チドリ目 カモメ科

コヒカメ

冬鳥



(大きさ43cm)

くちばしは赤く長い
足は赤い
夏は赤黒い
風切羽の先は黒い

冬に飛来する。ズグロカモメとちがって何でも食べる。河口や海ぞいなどにこにでもたくさん見られる。

ズグロカモメ

冬鳥



(大きさ32cm)

くちばしは黒く短い
足は赤黒い
止まっている時は風切羽が白と黒のしましまに見える

中国で子育てをする。日本には冬を越すために渡ってきて、干潟でヤマトオサガニなどを食べる。世界的に絶滅が心配されている鳥で、今では世界で9000羽もいないらしい。

えさのカニが
たくさんいる干潟や、
子育てをする環境が
持っているみたい。
心配だわ。

矢部川の鳥の生活のしかた ⇒ 夏鳥 南の方からやってきて子育てしながら夏を過ごす鳥 冬鳥 北の方からやってきて冬の間を過ごす鳥 留鳥 同じ地域にほぼ1年中くらしている鳥

ヤマセミ

留鳥

ブッポウソウ目 カワセミ科

(大きさ38cm)



背は白黒の水玉もようでおなかは白い。胸に黒いはん点がある。頭の羽(冠羽)が立ってよく目立つ。カワセミよりも上流の山があるところにすみ、ダイビングして魚をとる。土手に巣穴をほって子育てをする。

カワセミ

留鳥

ブッポウソウ目 カワセミ科 地方名: こーせみ

(大きさ17cm)



頭から背中中はコバルトブルー、おなかはオレンジ色の美しい鳥。川の河口から上流まで見られる。狩りが上手で、ダイビングして小魚をとる。川岸などの土手に作った巣穴の中で子育てをする。

オオヨシキリ

福

夏鳥

スズメ目 ヒタキ科 地方名: ぎよーぎよーしん

(大きさ19cm)



おなかと目の上が白く、は全身茶色っぽい。川のヨシ原などにすみ、ヨシを丸くあんで巣を作る。なわばりを持ち、"ギョギョギョギョギョ"とにこった大きな声でなく。虫やクモを食べる。

カササギ

福

留鳥

カラス目 カラス科 地方名: かちがらす

(大きさ45cm)



体は白黒で、よく見るとつばさと尾は青緑のメタリック。尾が長い。「カシャカシャ」となく。河原の草地や畑などにすみ、何でも食べる。筑後平野・佐賀平野のカササギのすみ場所は国の天然記念物に指定されている。

世界を旅する渡り鳥



生きものたちのつながり その2

渡り鳥は、子育てや寒い冬を越すために、北はロシアのシベリアや中国、南はオーストラリアなど地球の北半球と南半球を大移動する。その中間に位置する日本は渡り鳥たちのとおり道。夏や冬を過ごしたり、旅の途中で休けいたり、かれらにとって大切な場所なんだ。矢部川は魚やカニなどの生きものが多いから、かっこうのえさ場になるんだ。鳥たちは種類によってえさの好みやとり方がちがうので、それにあわせてくちばしの形もいろいろなんだよ。

小さな体で何千キロも旅するってすごい！
矢部川は世界の鳥たちにとって大切な場所なのね。



短くくちばしで干潟の表面のカニを食べるズグロカモメ

長くくちばしをおはしのようにつかうセイタカシギ

長くくちばしをおはしのようにつかうセイタカシギ

生きものの生活サイクル⇒ 春 夏 秋 冬 親が見られる時期を●色でぬっています。

アマガエル

春 夏 秋 冬

カエル目 アマガエル科 地方名: ぎやくぎやくどんく

(大きさ4.5cm)



体はふだん緑色だが、まわりの環境にあわせて変えることができる。目のまわりに黒い線がある。林や草地などにすみ小さな虫などを食べる。雨のふる前によく鳴くので天気予報ガエルとして知られている。

トノサマガエル

福

春 夏 秋 冬

カエル目 アマガエル科

(大きさ9.5cm)



背中の色は黄緑から灰色で、黒いはん点があり、真ん中にははっきりした線がある。水田や川、池などにすみ、昆虫やクモ、時には他のカエルも食べる。すばらしいジャンプ力をもつ。

ヌマガエル

春 夏 秋 冬

カエル目 アマガエル科 地方名: せんひきがえる

(大きさ5.5cm)



背中は赤茶色で黒いまだらもようがあり、おなかは白い。背中に1本の白い線があるものも多い。水田や池などにこく普通に見られ、小型の昆虫を食べる。国外ではインドまでの南の方に見られる。

ツチガエル

春 夏 秋 冬

カエル目 アマガエル科 地方名: いぼがえる

(大きさ5.5cm)



背中にいぼがある。のどとおなかに黒いはん点があることが多い。水田や池などにすみ、アリが好物。他のカエルとちがってオタマジャクシで冬を越す。つかまえられると臭いにおいをだす。

クサガメ

春 夏 秋 冬

カメ目 イシガメ科 地方名: ぜにがめ(子供)

(大きさ25cm)



名前の由来はおどかすときさいさいを出すことから。こうらに3本のもり上がりがある。色は黒っぽく、頭から首に黄色い筋もようがある。流れのゆるやかな川や沼などにすみ、魚やエビ、水草などなんでも食べる。石の上で日光浴をする。

スッポン

福

春 夏 秋 冬

カメ目 スッポン科 地方名: がめ

(大きさ35cm)



こうらはやわらかな皮におおわれている。足にみずかきがある。底が砂・泥の池や川にすみ、カニや水生昆虫などを食べる肉食性。性格が荒く、よくかみつくので注意。食べるとおいしい。

生きものの生活サイクル⇒  親が見られる時期を●色でぬっています。

シマヘビ

トカゲ目 ヘビ科 地方名：からすへび（黒化型）



(大きさ150cm)

4本のしもようがある。全身真っ黒なものもある。河原や田んぼのあぜ道、草原、山などいろいろな場所がよく見かける。カエルやトカゲなどを食べる。気性は荒いが毒はない。

アオダイショウ

トカゲ目 カナヘビ科 地方名：しろへび（白化型）



(大きさ200cm)

日本最大のヘビ。オリーブ色で4本の淡いたてじまがある。林や田畑にすんでいる。木造の家にもすむ。鳥とほ乳類がおもな餌。木によく登る。"青い大将"の名で強そうだが、毒はない。

ヤマカガシ

トカゲ目 ヘビ科



(大きさ150cm)

黒のまだらもように赤や黄色が混じる。水田や川とそのまわりの山野にすみ、カエルや小魚を食べる。性格はおとなしいが上あごに毒牙があり、首の後ろに毒がしみ出る部分があるので危険。

カヤネズミ

ネズミ目 ネズミ科



(大きさ8cm)

子育ての時期は巣をさわらないでね。



世界で最も小さいネズミで、人の親指くらいの大きさ。川岸の草地などのイネのなかま（チガヤ、オギなど）が密に生え、湿気がある場所に多い。葉を集めて、鳥の巣のような丸い巣を作る。春と秋に子育てをする。

タヌキ

ネコ目 イヌ科



(大きさ60cm)

尾はふさふさして、目のまわりに黒毛のパンダもようがある。山から人里にもあらわれ、河原もえさ場などに利用する。夜に活動し、なんでも食べる。家族で共同のトイレ場を決めて「ためふん」をする。

イタチ属の一種

ネコ目 イタチ科 (チョウセンイタチカイタチ)



(大きさ31cm)

体は黄色がかって尾が長く、鼻先は黒い。チョウセンイタチは体が少し大きく都市近くにもすみ、イタチは山の近くにおいやられている。カエル、ネズミ、鳥、魚などを食べる。おどかすと黄色く臭い液体をだす。

生きものの生活サイクル⇒  親が見られる時期を●色でぬっています。

キンクワダテグモ

クモ目 トタテグモ科



(大きさ1.5cm)

人家近くのけけ地や、石垣の間などに、横穴をほってくらす。名前の由来は、横穴の入口に片がわが開く戸（とびら）を立てることから。穴の近くを通る昆虫などを食べる。

フクロクヨコバイ

カメムシ目 ヨコバイ科



(大きさ1.4cm)

頭が前に伸びたユニークな形の大型のヨコバイ。雑木林などの地面に生えるススキをすみかとしている。本州・西国・九州の中でも限られたところにしかない。

ハグロトンボ

トンボ目 カワトンボ科 地方名：おはぐるとんぼ



(大きさ4.4cm)

オスはつやのある黒色、メスはかっ色でつやのないねをもつ。まわりに水生植物がしげる流れのゆるやかな場所にすみ。きょうな種類ではないけれど、自然な水辺の環境が必要な生きものだよ。

ベニツチカメムシ

カメムシ目 ツチカメムシ科



(大きさ1.9cm)

赤と黒の派手なもようで集団で生活するのでよく目立つ。親はポロポロノキの実を運んで幼虫に与え、子育てをする。ポロポロノキの生える九州北部から南の地方にしかない。

オオアメンボ

カメムシ目 アメンボ科



(大きさ2.7cm)

アメンボの名前の由来はアメのにおいがするかららしいわ。

日本最大のアメンボ。足が長く、特に中足は6cmもある。流れのゆるやかな小川、池沼などのまわりが林に囲まれたような少し暗い所にすみ、水面に落ちてきた昆虫の体液を吸う。

ハイイロボクトウ

チョウ目 ボクトウガ科



(大きさ4.5cm)

トンボのような形のはねと、太く長いどう体を持つ。地味なガのなかま。幼虫はおもにヨシを食べるので、ため池や川岸のヨシが広がる湿地にすんでいる。

生きものの生活サイクル⇒ 春 夏 秋 冬 親が見られる時期を●色でぬっています。

ヒメキマダラセセリ 福

チョウ目 セセリチョウ科



(大きさ1.7cm)

羽はオレンジ色で、黒いふちどりやすじもようがある小さくてきれいなチョウ。温った木かげなどにすみ、幼虫はイネ科やカヤツリグサ科などの草を食べる。

コムラサキ 福

チョウ目 タテハチョウ科



(大きさ3.0cm)

地色は茶かっで、オレンジ色や紫色のもようが光ってとてもきれいなチョウ。ヤナギ林にすみ、幼虫はヤナギの葉を食べる。成虫はヤナギ、クヌギ、コナラなどの樹液に集まる。

26ページも見てね

ゴマダラチョウ 福

チョウ目 タテハチョウ科



(大きさ5.0cm)

黒白ツートンカラーの大きなチョウ。林のまわりにすんでいて、時々はばたかす、紙飛行機のように飛ぶ。樹液にもよく来る。幼虫はエノキを食べ、エノキの落葉のうらなどにかくれて冬をこす。

ツマグロキチョウ 福

チョウ目 シロチョウ科



(大きさ1.7cm)

全体は黄色で、前の羽の先が黒いのが名前の由来。河川敷や堤防の草地、田畑のまわりにすみ。成虫はマメ科、キク科などの色々な植物の花のみつを吸うけれど、幼虫はマメ科のカワラツメケイだけを食べる。

26ページも見てね

ヒカゲチョウ 福

チョウ目 ジャノメチョウ科



(大きさ3.1cm)

羽は地味なベージュ色でうら面に目玉もようがある。川辺の林や里山の雑木林にすみ。幼虫はタケやササのなかまの植物を食べ、成虫はヤナギやクヌギなどの樹液を吸う。

アオヘリホノゴミムシ 福

コウチュウ目 オサムシ科



(大きさ0.8cm)

名前の由来は体が細く背中のへりが青いことから。河川やため池のまわり、水田のあとや湿地が残っているような環境のよい場所にすみ。

生きものの生活サイクル⇒ 春 夏 秋 冬 親が見られる時期を●色でぬっています。

ゲンジボタル 福

コウチュウ目 ホタル科



(大きさ1.8cm)

4ページも見てね

頭と羽は黒、胸はピンク、おしりを光らせてオスとメスが交信する。幼虫期（およそ10か月）は清流の水中で過ごし、まき貝のカワニナなどを食べる。川岸に樹木やコケの生える環境が必要。田んぼにいますのは、ハイケボタルという別の種類だ。

ヤマトヒメダカカコウムシ 福

コウチュウ目 カッコウムシ科



(大きさ0.5cm)

背中側にはぶいオレンジ色で黒いもようがあるが、このもようはさまざま。メダカのように眼が大きく飛び出ているのが名前の由来。河川のヨシ原にすみ、他の虫を食べる。

ジュウガンボンデントウ 福

コウチュウ目 テントウムシ科



(大きさ0.8cm)

体は赤く、背中に13個の黒い水玉もよう。形がまん丸ではないので、テントウムシに見えない。水辺のヨシ原にすみ、アブラムシのなかまなどを食べる。

ヤナギハムシ 福

コウチュウ目 ハムシ科



(大きさ0.8cm)

オレンジ色に、左右各10個の黒いはん点を持つ。はん点がないものもある。ヤナギ類を食べるので、ヤナギの生えた水辺でよく見られる。

昆虫は食べ物の好ききらいがある？

生きものたちのつながり その3

植物を食べる昆虫の幼虫は、決まった植物しか食べないものが多いんだ。かれらは好ききらいをしているんじゃなく、それぞれ決まった植物を食べる体になっているから、他の植物は食べることができないんだ。だから虫のお母さんは子供が食べられる植物にだけ卵を産むんだ。このえさとなる植物が育つ環境がなくなると、昆虫も生きていけないんだよ。



アオスジアゲハとクスノキ



ハイイロボクトウとヨシ

昆虫の名前	食べる植物
フクロヨコバイ	ススキ
ハイイロボクトウ	ヨシ
ベニツチカメムシ	ポロポロノキ
コムラサキ	ヤナギ
ヤナギハムシ	
ツマグロキチョウ	カワラケツメイ
クスアオジャク	クスノキ
アオスジアゲハ	
ゴマダラチョウ	エノキ
ヒカゲチョウ	タケ類、ササ類

虫を見つけたときは、まずえさとなる植物を探してみるといいかもね！

あ	アオダイショウ	23	く	クサガメ	22
	アオハリホソゴミムシ	25		クシテガニ	14
	アズキカワザンショウガイ	12		クスノキ林	18
	アズマガヤ	18		クルマヒラマキガイ	13
	アマガエル	22		クルマサヨリ	10
	アユ	10		クロヘナタリガイ	12
	アリアケガニ	15	け	ゲンジボタル	26
	アリアケギバチ	9	こ	コアジサシ	20
	アリアケシラウオ	10		コイヌガラシ	16
	アリアケモドキ	15		コギシギシ	16
い	イカルチドリ	20		コサギ	19
	イシガイ	13		ゴマダラチョウ	25
	イシマキガイ	12		コムラサキ	25
	イソヤマテンツキ	18	し	シオマネキ	15
	イタチ属の一種	23		シマヘビ	23
う	ウシオツメクサ	16		ジュウサンホシテントウ	26
	ウナギ	9	す	ズグロカモメ	20
	ウミマイマイ	13		スッポン	22
	ウモレベンケイガニ	14	せ	セイトカシギ	20
	ウラギク	17	た	ダイサギ	19
え	エツ	9		タヌキ	23
お	オオアメンボ	24		タビラクチ	11
	オオクリイロカワザンショウ	12	ち	チュウサギ	19
	オオヨシキリ	21		ツクヌキオトギリ	18
	オカミミガイ	13	つ	ツチガエル	22
	オグルマ	17		ツバメチドリ	20
	オヤニラミ	10		ツマグロキチョウ	25
か	カイツブリ	19	と	トノサマガエル	22
	カササギ	21		トビハゼ	11
	カゼトゲタナゴ	9	な	ナラビオカミミガイ	13
	カヤネズミ	23	に	ニッポンバラタナゴ	9
	カワアナゴ	11	ぬ	ヌマガエル	22
	カワウ	19	は	ハイイロボクトウ	24
	カワザンショウガイ	12		ハグロトンボ	24
	カワセミ	21		ハゼクチ	11
	カワヂシャ	17		ハマガニ	14
き	キシノウエタテグモ	24		ハマサジ	16
	キヌカツギハマシイノミガイ	13		ハラグクレチゴガニ	15

ひ	ヒカゲチョウ	25
	ヒクイナ	19
	ヒメキマダラセセリ	25
	ヒロクチカノコガイ	12
	ヒロハマツナ	16
ふ	フクド	17
	フクロクヨコバイ	24
へ	ヘイケガニ	14
	ベニツチカメムシ	24
	ベンケイガニ	14
み	ミサゴ	19
	ミズマツバ	16
	ミゾコウジュ	17
む	ムシヤドリカワザンショウ	12
	ムツゴロウ	11
	ムツハリアケガニ	15

め	メダカ	10
も	モクスガニ	14
	モノアラガイ	13
や	ヤガミスゲ	18
	ヤナギ林	18
	ヤナギハムシ	26
	ヤベガワモチ	12
	ヤマカガシ	23
	ヤマセミ	21
	ヤマトヒメメダカカッコウムシ	26
	ヤমনカミ	10
	ヤリタナゴ	9
ゆ	ユリカモメ	20
ろ	ロクオンソウ	17
わ	ワラスボ	11

主な参考文献

「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物1〔哺乳類〕」	環境省 2002
「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物2〔鳥類〕」	環境省 2002
「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物3〔爬虫類・両生類〕」	環境省 2000
「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物4〔汽水・淡水魚類〕」	環境省 2003
「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物5〔昆虫類〕」	環境省 2006
「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物6〔陸・淡水産貝類〕」	環境省 2005
「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物7〔クモ形類・甲殻類等〕」	環境省 2006
「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物8〔植物（維管束植物）〕」	環境省 2000
「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物9〔植物（維管束植物以外）〕」	環境省 2000
（いずれも（財）自然環境研究センター発行）	
「福岡県の希少野生生物—福岡県レッドデータブック2001—」	
福岡県総務部県民情報広報課	福岡県環境部自然環境課 2001.
「矢部川の魚類—河川水辺の国勢調査結果のまとめ—」	国土交通省筑後川河川事務所 2007.
「矢部川の底生動物—河川水辺の国勢調査結果のまとめ—」	国土交通省筑後川河川事務所 2007.
「矢部川の植物—河川水辺の国勢調査結果のまとめ—」	国土交通省筑後川河川事務所 2007.
「矢部川の鳥類—河川水辺の国勢調査結果のまとめ—」	国土交通省筑後川河川事務所 2007.
「矢部川の両生類・爬虫類・哺乳類—河川水辺の国勢調査結果のまとめ—」	国土交通省筑後川河川事務所 2007.
「矢部川の陸上昆虫類等—河川水辺の国勢調査結果のまとめ—」	国土交通省筑後川河川事務所 2007.
（いずれも国土交通省筑後川河川事務所発行）	
「フィールド総合図鑑 川の生物」 山海堂	（財）リバーフロント整備センター（編）1996.
「川の生物図典」 山海堂	（財）リバーフロント整備センター（編）1996.
「矢部川と生きものたち」 国土交通省筑後川河川事務所	国土交通省筑後川河川事務所 2001.
「有明海の生き物たち 干潟・河口域の生物多様性」 海遊舎	佐藤正典 2000.

本書に掲載した写真の一部は次の方から提供されたものです。ご協力有難うございました。
 橋本哲男氏、「日本野鳥の会 筑後支部」、田村耕作氏、西日本技術開発(株)

この図鑑の生きものの名前（種名）は「平成17年度河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（リバーフロントセンター）に従いました。

す かん
この図鑑にのっている生きものを見つけたら
そっとしておこうね！
ほか
他の生きものを外から持ちこまないでね。

あそ
川に遊びに行くときは
おとな いっしょ
は大人の人と一緒に
行こうね。

やべがわ しぜん
矢部川の自然と生きものたちは、
私たちみんなの宝物。
たいせつ
これからも大切にしていね！



やべがわ すかん
矢部川のきょうな生きもの図鑑

はっこうび かいてい
発行日：2007年7月改訂

へんしゅう はっこう こくどうつうしょう きゅうしゅうちほうせいびきょく ちくごがわかせんじむしょ かせんかんきょうか
編集・発行：国土交通省 九州地方整備局 筑後川河川事務所 河川環境課

住所：〒830-8567 福岡県久留米市高野1丁目2番1号

TEL 0942-33-9131 FAX 0942-37-8119

URL: <http://www.asr.mlit.go.jp/chikugo/>